

先生のだといふことが、それも随分と後になって解りました。その頃から、坂本先生の絵がとて好きでございました。中学校の時には、絵の他に何んでもやりました。特に運動が好きでございました。それから、柔道、剣道、相撲なんでもやりました。

その頃の友達と一緒に柔道をやってた者に松前重義がおります。短歌、随筆といろいろやりましたが、学校の勉強だけはちつともやりませんでした。相当に腕白だったという話が伝わっています。が、それ程のことでもなかったですよ、大分尾ヒレがついています。そのへんのところは余り書かないでくださいよ……。(アッハッハ)

隅田川

私は大正八年、美校に入るため東京に出た頃から、今日に至るまで、未だに隅田川の絵を描き続けています。鉄橋、煙突、水門といった一連の隅田川風景です。

私が好んで隅田川を描くのは、私が坪井川の縁で生れ育つたためでございます。ようね。物心ついた頃から、朝から晩まで坪井川で遊んでいました。まるで河童みたいなものでございました。その頃への郷愁が私に隅田川の絵を描かせるんでしょうね。

私の描く水の絵は、清く澄んでいてはいけないんです。汚れていなくては、そ

歩裏通りに入ると解らなくなりますよ。

それでも、船場から朝市あたりは、まだ昔が残っています、あのまま残して置いて欲しいという気持ちがありました。

思い出

私の思い出は坪井川です。思い出の全部が坪井川といつてもいい位でございます。坪井川で泳ぎを覚え、育ったんです。私の家に舟がありましてね、よく高橋、百間あたりまで行ったり来たりしたものです。忘れられませんか。

熊中時代には川尻から住吉あたりまで歩いて、よく写生やエビ釣りに行きました。川尻電車は後では走っていたようにすけど利用はしませんでした。もっぱら歩いてばかりでございました。去年帰りました時に思い出して行って見たんですが、変っていないんです。昔のまま残っていますね、あまりに懐しかったものですから、無中になって写生してきました。

江津湖の台湾ナギ

江津湖は汚くなりましたけれども、また変りもしましたね。それでも、まだ下江津の方へ行きますと、昔の感じが残っているようにございます。去年帰りました時に川尻の大慈善寺まで足をのばし

して魚の多くいそうな川でないかと駄目なんです。やっぱり坪井川みたいな川なんですね。

私の画風を評して「静寂者の詩」といった人がいると聞かれましたが、なんでか私には全然解りません。私はただ自分の好きな絵を自分の好きなように描いているだけですからね。

模索

昭和二年「芝居」が帝展に初入選しました。これは隅田川の絵ではなく芝居の絵です。その頃凝っていた歌舞伎を画題にしたものです。この作品は美校を卒業して初めて出品したものののです。その後三年続けて入選しましたが、その次は三年続けて落選、また三年続けて入選といった具合でございます。やはり、何か新しいものを絵の中に取り入れようとすると、それがまとまるまでに長い時間がかかるということでございます。ね。

同じ入選作品でも、前三年の作品と次の入選作品では絵の傾向が随分と違っています。

昭和二十二年、日展に出品した「炎屋」が特選となったんですが、これを機に間もなくして文展を脱退しましてね、無所属の画家で構成する「創元会」に入りました。ここでしばらく文展に出品していたんですが、文展というワケから離れて、もっと自由に描こうではないか

ました。荒れてはいますけれども、まだまだ素材が残っていますよ。

江津湖といえば台湾ナギが見事でございますでしたね、花の盛りには、さぞきれいだったでしょうね。台湾ナギを除去してしまつたという話を聞きましたが、なにか、もつたいないという気がしましたね、花の時に水路でも作つて舟でもだしたらいいものでしょうね。

去年行きました時に、子供たちがへらぶなを釣っていましたけれども、ああたりが公園化されていて昔と変つた所ですね。

私の子供の頃は五高のボートレースをよく見に行つたものです。花火大会も江津湖に場所をかえたそうですね。昔、藤崎宮あたりの白川河岸でやっていたのかすかに憶えています。江津湖の花火ですか、きれいでしょね……。

海と山

天草には帰ると必ず足をのばします。私には昔の天草を知っているものから、どうもねえ、今の天草は開けすぎているようにね、情緒がなく興味も少なくなりましたよ、それでも、御所の浦あたりは、まだ昔の天草が残っていますね。ああいう天草を残して置いて欲しいですね。これも住民の生活がかかっていますから、難しいことかも知れませんね。

という同志七人の意見が一致しましてね、そこで昭和二十四年に「立軌会」をつくりました。

「立軌会」に入った後も、私の絵が特に変わってきたということはありませんが、ただ戦前、戦時中を通して、隅田川の他に田園風景などを描いていきましたが、戦後は、爆撃された工場を見たのがきっかけでね、それが大変にきれいでございましたので……こんなことをいふと怒れるかも知れませんが……建物を描くようになりまして。

それでも最近の建物はきれいに整いすぎて興味なくなりましたねえ、このところ、また川とか田園風景の方に素材が移ってきたようでございます。

私の絵は戦争前は曲線が主になっていましたが、戦後、今、話しましたように建物を描くようになって直線が多くなってきました。煙突、タンクなど描きだしたのも戦後でございます。今は直線、曲線両方取り入れています。

勲三等瑞宝章

私は風景画を専門に描いておりますので、今でも外に出ます。歩いて素材にぶち当たらないことは描けないのですから、できるだけ歩いていきます。

現在は東京の近くで伊豆、房州、甲府などに出かけますよ。熊本の話になりましても、戦後間もなくは玉名あたりを足向けますと、それは素朴な農家が

私はね、山には興味がないでございます。もつとも小さい頃から川ばかりに馴染んできましたからね、いい山を知らないということもあるんです。山といえど花岡山で遊んだ記憶ぐらいですから、ですから海には非常に興味を感じますけれども、山にはひかれないんです。私の絵には山の絵は殆んどありません。阿蘇山にしても大観望から一度描いたきりでございます。田代順七さんのように毎年お描きになっている方もおられます。

連帯感

私は昭和四十三年まで東京芸大にいたのですが、今の学生は親しみがあつていいですね。中には悪いのもありますけれども気にしなければ、どうということもありません。私達の学生時代には、先生が歩いていらつしやると道を開けたものですが、今の学生は後から追いかけてきて話しながら一緒に歩きますね、私はいのことだと思えます。もつとも芸大の場合には個人教授ですから学生とのつながりも濃いでしょね。気持ちが通じているということとは大事なことに思っていますね。

東京にいますとね、人間同志の連帯感というものが急速に失われていくのに気づきますよ。今、地方では盛んにコミュニティづくりということがいわれている

ありましてね、結構描けたんですが、最近では変わってしまった、描く所がなくなりました。かなり遠方まで行きませんか。

私は元来コッコツ型の人間でございますから、製作にはかなり長い時間がかかるんです。集中的にやるということが出来ないんです。コッコツやっているうちに絵がいつの間にか出来ているという具合なんです。自分でもいつ出来るか解らないんです。解らないでいると翌日出来たりするんですね、解りませんね。昨年の秋、勲三等瑞宝章をいただきました。私なんかの功績もないのに、あんなものをいただいた、ただただ恐縮するばかりでございます。

船場・朝市界限

この家には真珠湾攻撃の日を越して来ましたが、それまでは中野にいたんです。引越した翌朝のラジオから軍艦マーチが聞こえるんです、何事だろうと思つていたら、真珠湾攻撃だといふんですね。あれは昭和十六年の十二月八日でございますね。忘れようとしても忘れられませんが。

熊本には家はありません、妹が一人居るだけでございます。二十歳で東京に出て来て、もう五十五年にもなります。最近以前より、かえってちょくちょく帰りますよ。熊本の街も変りましたねえ、特に下通りの変りようには驚きます。一

みたいですね、必要なことです。祭りも盛んになりましたね、このあたりでも終戦後しばらくは祭を盛んにやっていたが、最近はやりません。

熊本のミカン

熊本のミカンが随分と東京に出荷されてきていますね。田ノ浦の甘夏ミカン、河内、三角のミカン評判がよろしゅうございます。私は特に河内の葉ミカンが好きなんです。甘味があつて、香りがよくて、味も他のと全然違うんですね。去年、河内に行った時に聞いた話なんですけど、今はあまり作っていないらしいですね。

子供の頃、金峰山を越えて河内に行くんです。雑のうに一杯この葉ミカンを買って、その帰り道、弁当は食べずにミカンばかり食べて帰っていたのを思い出します。

美術館

美術館が三月に開館するんですけど、大変にすばらしいことですね。去年帰りました時に建築中のものを見せていただきました、いい場所でございますねえ、絶好の場所でございます。装飾古墳の部屋があつて、レプリカが入るんですね。熊本は装飾古墳の宝庫ですからね。開館を心待ちにしています。